

が、さらに、判読や図化の理解のため大いにこれらを利用してもらい、空中写真を学生諸姉各自の研究に役立ててもらおうと考えています。目がいたくなるなどとはじめはこぼしていた学生諸姉でしたが、三回生も終りの頃になって、大部写真を上手に利用するようになるのを見るとうれしくもなります。これから写真地理学の分野の充実に心掛けて行きたいと思っています。

国土地理院の時から、常日頃御指導を得、また、奈良にも屢々お越し下さった渡辺先生も近々御退官になられるとのこと、姉妹校にいる者としてもさびしくなります。末筆ながら先生の御健勝をお祈りたいと存じます。

（奈良女子大学助教授）

中 学 教 師 6 年 生

原 高 則

私が助手としてお茶大に勤務したのは、昭和38年4月から39年3月までの1年間でした。勤務といってもその前年から指導いただいた松井先生のそばでの仕事が大部分なので、学生時代の延長のような毎日でした。

お茶大から越谷市の中学校へ転任して、はや6年が過ぎました。無我夢中だったせい、それほどの歳月を感じませんが、越谷市の変遷や教え子の変化を知るにつけ、かなりの時間の経過が意識されます。埼玉県南部地域の例外にもれず、越谷市も都市化の波がおしよせ、赴任当時の田舎っぼい田園地域は住宅都市へと変わりました。人口も約8万から13万人への急増ぶりです。

最初の年に担任した生徒が、今年成人式を迎え20才になり、私と同じ世代になってしまいました。20代といっても私のほうは残り少なくなっていまい、昨年越谷市へ転居が決った時などは、年令的に新世帯かと憶測されてしまいましたが、残念ながらその方面はまだ駄目で、未だ独身、目下物色中です。

6年間の中学教師の生活はいそがしい日々でしたが、好きでとび込んだ道ですので、充実していたと思います。しかし苦勞の種もつきません。

授業の中で社会科の授業はむづかしいほうでしょう。生徒のほうは中学時代に英語や数学で苦しむ者が多いのですが、英・数に比べ社会科は方法論に論議が多く、教師は迷っています。御承知のように中学校社会科は地理・歴史・政経社の3分野に渡り内容が豊富で社会・科学辞典のような性格も要求されます。新指導要領が近く実施されますが、そこには地理的分野の指導方法については、地域区分は従来の七地域区分にこだわらず現場の創意に任せるとあります。中学校の教師に地域区分を任せるとゲタをあずけられたわけですが、これは難点の一例です。むづかしいことを知的水準の低い生徒にわかりやすく教えることは大変で、6年たってもあいかわらず指導案づくりに追われています。

教えることのむづかしさは、生徒指導のむづかしさにつながるような気がします。現在、私は3年生を担当し進路決定の段階ですので、このことが、とりわけ痛感されます。就職・進学のための資料を使い、生徒の心をよんで指導することは、生徒指導の技術の巧拙を試される絶好の機会です。生徒を通じて家庭の経済的条件を見としたり、親の希望と現実の状態とを整理していくことは大変な仕事のひとつです。

私の学校の職員数は45名で、中学校としては大規模校のほうです。人それぞれ違いますので、45人もいれば人間関係にも相当注意を配ります。最近の都市化の風潮は、職場の権利意識を高揚させ組合論議が活発になりました。また、人事院勧告をめぐる職員対管理者、職員間の微妙な関係は頭を悩ます問題の一つです。明確な態度を要求される課題ともいえます。

以上、簡単ですが近況報告に雑感を折りまぜて記しました。最後に平素の御無沙汰を謝し、お茶大地理学研究室の発展を、遙かに祈っております。

(越谷市立中央中学校教諭)